



Mount Fuji Research Institute
Yamanashi Prefectural Government

December.2016

トピックス 富士山研まつり2016を開催しました

環境情報センター便り

研究紹介 ● 里地・里山としての草原 小笠原 輝 (環境共生研究部)

マツボックリ通信 富士山火山観察会

News Letter

opics トピックス

富士山研まつり2016を開催しました

この時期に発行するニューズレターの記事としては遅いかもかもしれませんが、年に1度の大切な研究所公開イベントについてご紹介いたします。

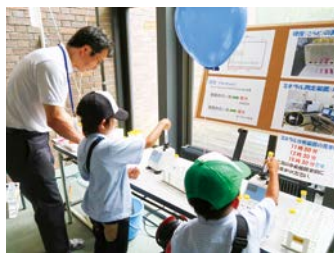
8月21日(日)に「富士山研まつり2016」を開催しました。当日はおおよそ350名の方々にお越しいただきました。親子で科学や研究所に親しんでいただけるよう、バリエーションに富んだ17のプログラムを準備して開催しました。

体験プログラムは9つ。水洗いした火山灰の中からきれいな鉱物を探す「マグマの中の宝石を探そう」、実際に調査に使われている機材を使って森の中にある発信機を探す「シカを電波で追跡」。またマツボックリや葉っぱなどを炭にしてみる「花炭づくり」など、多くのプログラムが好評ですすぐに定員に達してしまうほどでした。他にも、ペットボトルと加圧ポンプを使って雲のできるしくみを学ぶ「雲をつくってみよう」や硬度の違う3種類の水を飲んで違いを体験し、その違いを試薬によって確かめる「調べて味わう富士山の水」などの実験プログラムでは改めて科

学の奥深さを実感してもらえたようです。さらに、植物の葉の裏にある気孔を顕微鏡で見たり、精密に作られた富士山の赤色立体地図模型に溶岩に見立てた液体を流してどのように流れるかを見たりする観察プログラムも用意しました。来館者が参加・体験するだけでなく、その場で研究員の解説を聞いて質問できることにも喜んでいただけたようです。また他施設との連携プログラムとして、八ヶ岳自然ふれあいセンターから「富士山・八ヶ岳にいる動物のくらし」を展示していただきました。他の施設の活動を見られることも大変有意義なものとなりました。

どのプログラムにも多くの来場者が訪れ、楽しみながら学んでいただくことができ

ました。来場者からは「いろいろと勉強できて楽しかった」、「子どもと楽しく参加できました。ありがとうございました」、「とても楽しく実験に参加できました。次回も楽しみにしています」など、来年度に期待する声が多く寄せられました。「富士山研まつり」は年に1度、研究棟まで含めて「公開」する日として定着しており、幅広い年齢の方々楽しんでいただけたものになってきました。来年度も夏の時期に実施する予定です、ぜひご期待ください。今後も、富士山科学研究所が県民にとって身近な存在であり続けられるよう、様々なイベントの実施、出展や出版物を通して情報発信をしていきます。



環境情報センター便り

コケ世界への誘い

植物の多くが葉を落としてしまう冬。そんな中、身近な場所でひっそりと緑を保つ植物がいます。それはコケ。神社の石段や公園の木、道端のコンクリート…。彼らがどうやって生きているのか、本をとおして学んでみませんか？

■コケ入門書

- 生きもの好きの自然ガイド このは No.7「コケに誘われコケ入門」…文一総合出版
- ときめくコケ図鑑…田中美穂 文 伊沢正名 写真/山と渓谷社
- コケはともだち…藤井久子 著 秋山広之 監修/リトルモア

■コケ好きが語るコケの世界

- コケの謎—ゲッチョ先生、コケを食う…盛口満 著 /どうぶつ社
- コケの自然誌…ロビン・ウォール・キマラー 著 三木直子 訳/築地書館

■写真で見るコケ

- 苔の宇宙…大橋弘 写真/ダイヤモンド社

■コケを育てる・飾る

- 小さな緑の世界 テラリウムをつくらう…ミシェル・インシアノー, ケイティ・マスロウ 著 中俣真知子 訳/草思社



里地・里山としての草原

小笠原 輝 (環境共生研究部)

はじめに

人間は周りの自然環境から多くの恵みを得て生活をしてきました。こうした土地のほとんどは、個人ではなく集落などの社会的集団で維持管理がなされてきました。しかし、機械化や経済の発達などを理由に、これまで利用してきた自然環境と人間の生活がだんだんと離れたものになっていっています。例えば、燃料は、かつては家の周りの山林から木材や枝などを集めて薪としたり近郊で焼いた木炭などを使ったりしていました。現在、燃料はほとんどの家庭において石油やガスなどに代わっています。こうして、里地・里山に代表される二次的自然環境は人々にとって、だんだんと必要性を失い利用されなくなります。その結果、社会的集団による維持管理も行われなくなり、それに伴って荒廃が進行していきます。環境共生研究部の研究では、こうした場所は居住域や農業に被害をおよぼす野生動物にとって良い通過点・隠れ場所になっていることをこれまでに指摘してきました。

私たちのくらしと草原

さて、私たちはさまざまな自然環境に囲まれて暮らしていますが、日本で一番減少している自然環境(土地利用)の形態は何だと思いますか。森林や湿地、干潟でしょうか。答えは「草原」なのです。小椋(2011)によると、草原は1920年頃には国土の約10%に相当する面積を有していましたが、2010年では国土の1%程度までに減少していると推計されています。ですから、現在の私たちの身の回りには、草原はほとんどみられなくなり、草原がどのようなものなのかかわからない人も多く

なっています。ここでいう草原は牧場や公園などにみられる芝地ではありません。古くから私たちの生活に密着して文学などでよく表現されてきたオミナエシやキキョウ、カワラナデシコなどの秋の七草に代表される草本類が生育する草原です(写真1)。人間は、草原に生える草本を肥料の原料や馬などの家畜の飼料、家屋の屋根や壁の資材、家庭薬、食料(山菜)などとして、生活のいろいろな場面で用いてきました。しかし、化学肥料の導入や機械化など、現在に至るライフスタイルの変化でその必要性を失い、草原はだんだんと経済的価値を失います。必要とされなくなった草原は、植林をされたり放棄されたりしていきます。利用や管理といった人間の手が入らないままに放棄された草原は、植物の遷移によりだんだんと木本が侵入して林となり草原ではなくなってしまう。また、利用しない草原は「はげ山にみえるもったいない場所」という意識や治山、治水を理由に木が植えられたのかもしれませんが。こうしてかつて日本中に存在していた草原は減少を続けていきました。しかし、山梨県においては富士山麓などに火入れなどで管理がされ続けている貴重な草原が残されています(写真2)。これは日本全体からみても貴重な例といえます。

これからの草原管理にむけて

本研究所では、平成29年度から富士山の北麓の集落を対象として、本来ならば経済的価値を失ったようにみえて放棄されてもおかしくない草原が、現在でもどのように維持・管理され続けているのかということを明らかにしていく予定です。今日でも草原を維持・管理している集落と、すでに



写真1 秋の七草(忍野村高座山)
撮影:大脇 淳(自然環境研究部)

写真2 忍野の草原火入
撮影:大脇 淳(自然環境研究部)



草原を放棄してしまった集落を比較対象として、その管理方法や集落の大きさ、生活のちがひ、管理維持・放棄に至った歴史的背景などを聞き取り調査やアンケート調査などを用いて研究していきます。

草原は生物多様性の面からも注目される自然環境の一つとされており、利用や火入れなどの管理という人間の手が介在しているからこそ、その環境に生息できる動植物がたくさんあります。草原は秋の七草の多くの主要な生息環境になっているほか、レッドデータブックに掲載されている(絶滅のおそれのある野生生物)種の生息環境に

もなっているのです。こうした貴重種を守るために、市民団体が集まって維持管理をしている草原も日本各地に点在します。しかし、富士北麓の集落では生物多様性を維持するためといった目的とは全く関係なく、住民が主体となって草原の維持管理が行われ続けています。このことも大変珍しい例だと考えられます。

将来の私たちの周りにある自然環境の生物多様性だけでなく、里地里山とどう付き合っていくのか私たちの生活の多様性まで含めた地域の管理方法を考える研究にする予定です。



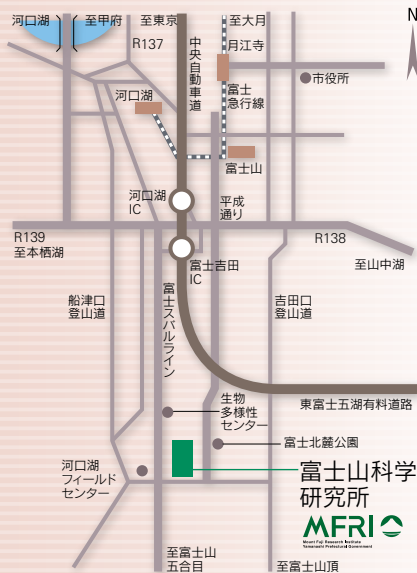
毎年好評の「富士山火山観察会」、今年度はコースを変更して、富士山五合目、西湖コウモリ穴、鳴沢ジラゴンノを観察場所として実施しました。8月28日(日)、9月1日(木)の2回、あわせて55名もの方々に参加いただきました。

当日はまずバスに乗り、富士山五合目に向かいました。車中では、開講式の後、講師をつとめる富士山研の火山防災研究部研究員が火山としての富士山について解説をしました。その後、五合目駐車場から御中道を通り、時おり姿を見せる富士山頂を見ながら、御庭・奥庭火口列などを観察しました。参加者の皆さんは溶岩流や雪代の流れた跡などを眺めながら熱心に説明を聞き、メモを

取ったり質問をしたりしていました。麓に下りてから昼食をとり、午後からは西湖コウモリ穴へ向かいました。コウモリの姿は見られませんでした。足元に気をつけながら前に進み、狭い場所をぐり抜けて、溶岩流によってできた洞穴を体感しました。最後の観察場所である鳴沢ジラゴンノはその昔採石場だった場所です。皆さん、観察を通して溶岩や溶岩樹型についての知識・理解を深めていました。

観察会は両日とも天気心配もなく、予定通り行うことができました。今年度、全部で6回の観察会はすべて無事に終了しました。来年度の観察会へのご参加を心よりお待ちしております。

access map



- **アクセス**
 - 富士急行線河口湖駅より
 - 富士急行バス富士山五合目行き(季節運転)
 - 中央自動車道河口湖ICより5Km
- **開館時間** 午前9時～午後5時
- **休館日** 年末年始、館内点検日
- **休止日** 環境教育事業…
【12月～3月】月曜日(祝日を除く)

山梨県富士山科学研究所

〒403-0005山梨県富士吉田市上吉田字丸尾5597-1

- **代表** 0555-72-6211
- **教育** 0555-72-6203(環境教育プログラム受付)
- **情報** 0555-72-6202(図書貸出等)
- **広報・交流** 0555-72-6206
(出張講義・富士山相談総合窓口)
- **FAX** 0555-72-6204
0555-72-6183(環境教育プログラム等申し込み)

URL <http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/>
Facebook Mt.FUJI.research.institute
E-mail www-admin@mfri.pref.yamanashi.jp

※ニュースレターのバックナンバーはホームページでご覧になれます

発行・平成28年12月

参加者からの声

- より一層、富士山に興味を持ちました。四季折々に変化する美しい姿だけでなく、その歴史にも興味を持っていきたいと思えます。
- 富士山はきれいな山、だから登ろう。コウモリ穴はコウモリいるかなー、行ってみよう。そんな単純な気持ちでしたが、溶岩の形、歴史などいろいろ分かりました。孫に伝えていきたいと思えます。
- 疑問に思ったことをその場で質問でき、ちゃんと答えていただける事、本当にありがたいです。



イベント情報

企画展「楽しい登山のススメ」

富士登山中の急性高山病や登山中の生理応答に関する研究成果をわかりやすくお伝えします。高山病のリスクを少しでも減らし、安全で快適な登山へのきっかけになるよう、グラフィックパネルや実物を展示します。

11/28(月)～3/17(金)本館1Fエントランスホール
9:00～17:00(最終入場16:30)

もりのおはなしかい～えほんのよみきかせ～

幼児～小学校低学年を対象に、絵本の読み聞かせや森の観察などをとおして自然と触れ合い、興味や関心を伸ばします。会の前にはおりがみ教室も開催、プレゼントもあります。

12/11(日) 1/15(日) 2/12(日) 3/12(日)(毎月1回)
10:30～、14:00～ 各約40分 本館1Fホール

親子森を楽しむ会

県内の小学生とその保護者を対象に、自然体験や工作などをとおして自然に親しみます。

2/4(土)13:00～16:00 屋外・本館1Fホール
※12/13(火)～12/25(日)9:00～17:00、電話に

- イベントはすべて無料です。
- 日時や内容などを予告なく変更することがあります。
- 電気設備点検日(12/17)、年末年始(12/29～1/3)以外はエントランス展示、企画展示、環境情報センターをご利用いただけます。ただし12月から3月までの月曜日(祝日を除く)は、環境教育事業を休止します。

スタッフボイス mini staffvoicemini

富士北麓もずいぶん冷え込んできました。春から秋にかけて、精力的にフィールド調査を進めてきた研究員たちもこの時期になると室内にこもり、集めたサンプルやデータの分析を進めています。調査はもちろん、それらを分析し、結果としてまと

て申込みを受付します。応募者多数の場合は抽選を行い、当選者にご案内を発送します。

富士山自然ガイド・スキルアップセミナー

富士山とその周辺の自然ガイドに役立つ、最新の科学的研究と実践をとおして分かってきた知見をお伝えします。

12/3(土) 1/14(土) 2/11(土) 3/11(土)
本館1Fホール
13:30～16:00(申込み不要)

国際シンポジウム2016

堆積物から噴火の歴史を読み取る一火山山麓の湖から湖沼の底にたまった泥など(堆積物)の解析から火山の噴火履歴をより詳細に解明しようとする研究の最前線を、国内外からお招きした講師がご紹介いたします。

1/22(日) 富士吉田市民会館 小ホール
10:00～16:00(申込み不要)

平成28年度 研究成果発表会

今年度、富士山研で調査・研究を進めてきた課題について、口頭とポスターで成果を発表します。

2/25(土) 防災新館(甲府) 1Fオープンスクエア
13:00～15:30

め上げてはじめて「研究」と言えるのです。こうした成果は、冬の時期も公開講座、シンポジウム、研究成果発表会などでわかりやすくお伝えしていきます。皆さまのご参加をお待ちしております!